

街並みテクテク No.26 日暮里駅～日暮里駅 (2026-5-17)

参加者：碓貴臣、岸敦夫・美智代 (夫妻)、後藤幸子、染谷ミドリ、高野泰三郎、塚田浩、三木和幸、矢崎文彦、木村芳一 (敬称略；計 10 名)

行程：日暮里駅～日暮里駅 約 6km

日暮里駅→善性寺→天王寺→谷中霊園→自性院 (愛染寺) →大名時計博物館→浄名院→日暮里南公園→夕焼け小焼けの記念碑 (第二日暮里小学校) →日暮里繊維街→谷中銀座 (夕やけどんだん) →日暮里駅

- ・夏並みに暑い日だったので、予定を変更して日暮里界隈のテクテクだけにしました。
- ・善性寺は徳川将軍家ゆかりの寺で、その門前から谷中霊園に上る坂は芋坂と呼ばれ、上野戦争で敗れた彰義隊が駆け下りてきたと言われていています。この坂と王子街道の交差点にあるのが文政時代に創業された藤ノ木茶屋で、現在では名物「羽二重団子」が売られています。
- ・谷中霊園のさくら通りには、幸田露伴の小説「五重塔」のモデルとなった塔の跡があり、また数多くの有名人の墓の紹介碑がありました。
- ・第二日暮里小学校の際に設けられた「夕焼け小焼け」の記念碑には、そこの教師であった中村雨紅が 1923(大正 12)年に童謡「夕焼け小焼け」を作詞したとの説明がありました。この歌は八王子市に関係あると記憶していたので、調べたところ、小学校からの帰り道、八王子駅から恩方村の宮尾神社(自宅)までを歩きながら見た風景を歌詞にしたとのことでした。
- ・日暮里の駅前に山吹の里伝説に基づく、太田道灌と山吹の花を捧げた少女の大きな像がありましたが、早稲田の面影橋の近くにも「山吹の里」の碑が建てられ、同じような伝説が残されています。このような話は各地にあるようです。

(木村芳一)



日暮里駅前にて



善性寺の正門



谷中霊園のさくら通り



川口松太郎の「愛染かつら」ゆかりの愛染寺



大名時計博物館



大名時計の一例



分岐路にある高いヒマラヤ杉



谷中銀座の「夕やけどんだん」の下で